

日本・アジア／米国間コンテナ貨物の荷動き動向について

(2017年3月〔往航〕速報値)

(公財) 日本海事センター 企画研究部

* 文中の%は、寄与度とシェア以外で特に記載がない場合は、対前年同期比を表します。

I. 往航（アジア 18ヶ国・地域→米国）の荷動き

- (1) 2017年3月のアジア（18ヶ国・地域）から米国へのコンテナ荷動き量は、2ヶ月ぶりの増加となる10.2%増の112.4万TEUと3月単月では過去2番目の荷動きとなった。1-3月の四半期別の累計では、前年同期比1.8%増の365.9万TEU。
- (2) 国別では、日本（4.4%減）、韓国（16.2%減）、インド（0.4%減）などが減少となったものの、中国（16.5%増）、台湾（5.0%増）、ベトナム（27.8%増）などが増加。地域別では、ASEAN（12.6%増）は増加となったものの、南アジア（1.3%減）は減少。
- (3) 日本は、2ヶ月ぶりの減少となる4.4%減の6.1万TEU。品目別の1位（2015年の年計ベースの各国・地域の品目別順位、以下同様）の「自動車部品」（1.6%減）が4ヶ月ぶりの減少、2位の「車両機器及び部品」（7.6%減）が9ヶ月連続の減少、3位の「タイヤ及びチューブ」（4.2%減）が13ヶ月連続の減少。
- (4) 最大の出荷国である中国は、2ヶ月ぶりの増加となる16.5%増の67.0万TEU。1位の「家具及び家財道具」（27.0%増）、2位の「繊維及びその製品」（17.4%増）及び3位の「一般電気機器」（10.8%増）が2ヶ月ぶりの増加。香港は13ヶ月ぶりの増加となる8.5%増の1.8万TEU。
- (5) 韓国は、3ヶ月連続の減少となる16.2%減の6.2万TEU。1位の「自動車部品」（30.2%減）が4ヶ月連続の減少、2位の「一般電気機器」（19.0%減）及び3位の「タイヤ及びチューブ」（3.9%減）が3ヶ月連続の減少。
- (6) 台湾は、3ヶ月ぶりの増加となる5.0%増の5.0万TEU。1位の「建築用具及び関連品」（8.4%増）及び2位の「自動車部品」（2.6%増）が2ヶ月ぶりの増加、3位の「家具及び家財道具」（1.1%増）が3ヶ月ぶりの増加。
- (7) ASEANはマレーシア（3.0%増）、タイ（18.5%増）、ベトナム（27.8%増）などが増加となったことなどにより、全体では11ヶ月連続の増加となる12.6%増の18.7万TEU。ASEAN最大の出荷国であるベトナムは、12ヶ月連続の増加となる27.8%増の6.6万TEU。1位の「家具及び家財道具」（37.9%増）が12ヶ月連続の増加、2位の「繊維及びその製品」（10.9%増）及び3位の「履物及び附属品」（21.8%増）が2ヶ月ぶりの増加。
- (8) 南アジアはパキスタン（5.2%増）以外が減少となったことなどにより、全体では5ヶ月ぶりの減少となる1.3%減の7.5万TEU。南アジア地域最大の出荷国であるインドは、5ヶ月ぶりの減少となる0.4%減の5.6万TEU。1位の「繊維及びその製品」（3.1%減）が8ヶ月ぶりの減少、4位の「家具及び家財道具」（1.8%減）が6ヶ月ぶりの減少。
- (9) 品目別では、「家具及び家財道具」（寄与度3.2%増）、「一般電気機器」（同0.8%増）、「床材・ブラインド等のプラスチック製品」（同0.8%増）などが増加に寄与。
- (10) 船社別では、1位（2016年（暫定値）年計ベースの船社別順位、以下同様）のEVERGREENが2ヶ月ぶりの増加となる12.8万TEU（35.4%増）、2位のCOSCOが3ヶ月ぶりの増加となる11.1万TEU（12.4%増）（注）。3位のMAERSKが2ヶ月ぶりの増加となる11.5万TEU（16.6%増）。邦船社ではK LINEが2ヶ月ぶりの増加となる7.0万TEU（38.3%増）、NYKが8ヶ月連続の増加となる6.0万TEU（13.8%増）、MOLも8ヶ月連続の増加となる6.1万TEU（14.4%増）。ちなみに2017年1-3月の累計における邦船3社のシェアは16.26%。

(注) 対前年同月比における前年値は、COSCO と CHINA SHIPPING との合計値。

表-1 2017年3月:積国・地域別荷動き

国・地域	往 航				
	荷動量 (TEU)	前年比 (%)	シェア (%)	1-3月の 累計(TEU)	前年同期比 (%)
18ヶ国・地域 合計	1,123,501	10.2	100.0	3,658,712	1.8
日 本	60,656	▲4.4	5.4	156,416	▲2.1
韓 国	62,145	▲16.2	5.5	178,587	▲9.2
台 湾	50,370	5.0	4.5	147,726	▲3.0
中国+香港 計	687,940	16.2	61.2	2,391,587	1.6
中 国	670,367	16.5	59.7	2,324,749	1.9
香 港	17,573	8.5	1.6	66,839	▲7.5
マカオ	19	▲24.7	0.0	67	▲15.5
ASEAN 計	187,082	12.6	16.7	573,207	8.7
シンガポール	7,446	▲0.5	0.7	22,349	▲10.9
フィリピン	12,328	▲7.2	1.1	31,525	▲1.9
マレーシア	23,988	3.0	2.1	65,684	▲4.8
インドネシア	31,448	▲0.3	2.8	90,010	0.2
タ イ	41,751	18.5	3.7	114,830	15.5
ベトナム	66,051	27.8	5.9	235,855	18.0
カンボジア	3,613	4.2	0.3	11,719	2.4
ミャンマー	458	100.9	0.0	1,234	57.8
南アジア 計	75,290	▲1.3	6.7	211,122	3.3
スリランカ	3,350	▲9.5	0.3	10,285	▲0.8
バングラデシュ	7,411	▲9.9	0.7	23,805	▲6.4
パキスタン	8,750	5.2	0.8	24,769	5.6
インド	55,779	▲0.4	5.0	152,263	5.0

(注) 集計対象は、日本、韓国、台湾、中国、香港、マカオの他、ASEANのうちシンガポール、フィリピン、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、カンボジア、ミャンマーの8ヶ国、南アジアではインド、パキスタン、スリランカ、バングラデシュの4ヶ国、合計18ヶ国・地域を対象としている。また、速報値ベースでの発表のため、後に若干の修正が加わる場合がある。

II. 往航の品目別・船社別荷動き

- (1) 往航荷動き量を品目別にみると、荷動きを牽引している住宅関連3品目（「家具及び家財道具」、「建築用具及びその関連品」、「床材・ブラインド等のプラスチック製品」）の合計荷動き量は、2ヶ月ぶりの増加となる21.5%増の25.6万TEU。品目別でみると、3品目ともに2ヶ月ぶりの増加。「家具及び家財道具」は23.1%増の17.5万TEU、「床材・ブラインド等のプラスチック製品」は21.3%増の4.8万TEU、「建築用具及びその関連品」は14.0%減の3.3万TEU。
- (2) 「繊維及びその製品」は2ヶ月ぶりの増加となる4.7%増の10.3万TEU。
- (3) 「一般電気機器」は2ヶ月ぶり増加となる10.7%増の8.6万TEU、「テレビ・ビデオ等の映像・音響製品」も2ヶ月ぶりの増加となる15.4%増の3.1万TEU。
- (4) 「自動車部品」は3ヶ月連続の減少となる4.8%減の5.0万TEU、「タイヤ及びチューブ」も3ヶ月連続の減少となる2.7%減の3.8万TEUと自動車関連貨物は低迷。

表-2 往航:2017年3月の品目別荷動き(上位10品目)

品目名	荷動量 (TEU)	前年比 (%)	寄与度 (%)	シェア (%)
1. 家具及び家財道具	175,062	23.1	3.2	15.6
2. 繊維及びその製品	102,528	4.7	0.4	9.1
3. 一般電気機器	85,668	10.7	0.8	7.6
4. 自動車部品	50,127	▲4.8	▲0.2	4.5
5. 床材・ブラインド等のプラスチック製品	47,508	21.3	0.8	4.2
6. タイヤ及びチューブ	38,212	▲2.7	▲0.1	3.4
7. 建築用具及び関連品	33,414	14.0	0.4	3.0
8. 車両機器及び部品	32,088	6.4	0.2	2.9
9. テレビ、ビデオ等の映像・音響製品	30,783	15.4	0.4	2.7
10. おもちゃ	28,896	17.7	0.4	2.6

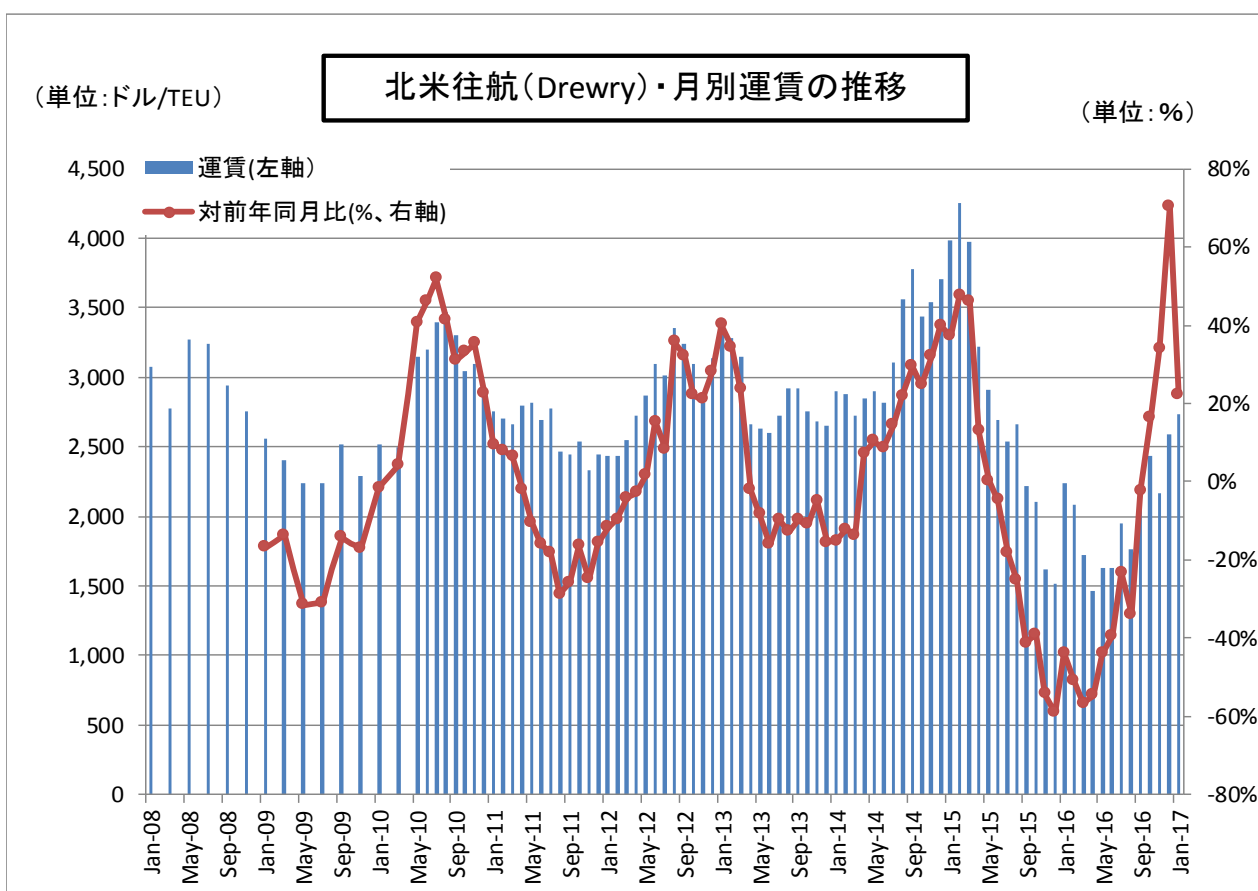
表-3 往航:船社別輸送量シェア(%)

順位	往航船社名	2014年	2015年	2016年	2017年1-3月	最近の推移など
1	EVERGREEN	10.23	10.42	10.76	10.92	2ヶ月ぶりの増加
2	MAERSK	10.03	8.79	9.36	10.23	2ヶ月ぶりの増加
3	CMA-CGM	6.41	7.73	7.46	7.63	5ヶ月ぶりの増加
4	HANJIN	7.62	7.37	5.09	0.00	
5	MSC	6.53	6.74	7.65	8.44	12ヶ月連続の増加
6	COSCO(N)	6.58	6.64	10.20	9.81	3ヶ月ぶりの増加
7	APL/NOL	7.00	5.79	6.11	6.92	9ヶ月連続の増加
8	K LINE	5.57	5.77	5.97	6.08	2ヶ月ぶりの増加
9	YANG MING	5.01	5.21	5.15	5.35	2ヶ月ぶりの増加
10	OOCL	4.72	4.72	5.30	5.26	2ヶ月ぶりの増加
11	NYK	4.57	4.61	4.74	5.13	8ヶ月連続の増加
12	CHINA SHIPPING	4.38	4.57	0.00	0.00	
13	MOL	4.59	4.50	4.59	5.05	8ヶ月連続の増加
14	HYUNDAI	5.23	4.50	4.69	5.84	8ヶ月連続の増加
15	HAPAG-LLOYD	4.42	4.12	4.48	4.71	12ヶ月連続の増加
	OTHERS	7.12	8.51	8.46	8.61	2ヶ月ぶりの減少
	TOTAL	100.00	100.00	100.00	100.00	

* 2016年のCOSCOの数値はCHINA SHIPPINGとの合計値(シェア)

* 単位は%。順位は2015年を基準とした。また2016年、2017年は暫定値。

Ⅲ. コンテナ運賃の動向



	2014年		2015年		2016年		2017年	
	(単位・ドル/TEU)	対前年同月比(%)	(単位・ドル/TEU)	対前年同月比(%)	(単位・ドル/TEU)	対前年同月比(%)	(単位・ドル/TEU)	対前年同月比(%)
1月	2,900	-15.2%	3,980	37.2%	2,240	-43.7%	2,740	22.3%
2月	2,880	-12.2%	4,250	47.6%	2,080	-51.1%		
3月	2,720	-13.7%	3,970	46.0%	1,720	-56.7%		
4月	2,850	7.1%	3,220	13.0%	1,460	-54.7%		
5月	2,900	10.3%	2,910	0.3%	1,630	-44.0%		
6月	2,820	8.5%	2,690	-4.6%	1,630	-39.4%		
7月	3,110	14.3%	2,540	-18.3%	1,950	-23.2%		
8月	3,560	21.9%	2,660	-25.3%	1,760	-33.8%		
9月	3,780	29.5%	2,220	-41.3%	2,170	-2.3%		
10月	3,440	24.6%	2,100	-39.0%	2,440	16.2%		
11月	3,540	32.1%	1,620	-54.2%	2,170	34.0%		
12月	3,710	40.0%	1,520	-59.0%	2,590	70.4%		
1-3月	2,833	-13.7%	4,067	43.5%	2,013	-50.5%		
4-6月	2,857	8.6%	2,940	2.9%	1,573	-46.5%		
7-9月	3,483	22.1%	2,473	-29.0%	1,960	-20.8%		
10-12月	3,563	32.1%	1,747	-51.0%	2,400	37.4%		
年平均	3,184	11.1%	2,807	-11.9%	1,987	-29.2%		

参考資料

表-4 米国内地域別(西岸/東岸/ガルフ)荷動きの構成比の推移

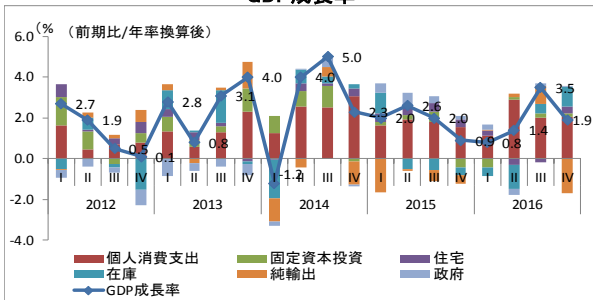
米国内地域 集計年(月)	往 航			復 航		
	西岸揚 (%)	東岸揚 (%)	ガルフ揚 (%)	西岸積 (%)	東岸積 (%)	ガルフ積 (%)
2012年	69.9	28.0	2.1	65.3	32.0	2.7
2013年	69.6	28.3	2.1	64.8	32.4	2.8
2014年	68.4	29.3	2.3	62.7	34.0	3.3
2015年1月	60.1	36.2	3.7	53.0	42.0	5.0
2月	60.8	35.9	3.3	58.5	37.1	4.3
3月	65.6	32.0	2.5	56.9	38.6	4.5
4月	65.2	31.5	3.3	58.3	37.6	4.1
5月	65.1	31.9	3.0	60.1	35.5	4.5
6月	64.8	32.8	2.4	58.0	38.6	3.4
7月	64.0	33.3	2.7	60.9	35.3	3.8
8月	67.1	30.5	2.4	63.1	33.7	3.3
9月	64.9	32.5	2.7	57.9	38.1	4.0
10月	64.3	33.3	2.4	60.6	36.1	3.4
11月	66.8	30.8	2.3	59.0	37.5	3.5
12月	64.7	32.1	3.2	59.3	36.2	4.5
2016年1月	65.8	31.4	2.7	56.9	38.9	4.2
2月	64.1	33.0	2.9	59.8	35.9	4.3
3月	60.9	36.2	2.9	60.3	35.4	4.4
4月	65.6	31.5	2.9	60.7	35.4	4.0
5月	65.8	31.6	2.6	58.7	37.3	4.0
6月	64.9	31.9	3.2	58.9	36.6	4.5
7月	64.0	32.6	3.4	61.2	34.4	4.4
8月	63.8	32.9	3.3	60.1	35.5	4.4
9月	64.0	32.5	3.5	60.3	35.1	4.6
10月	63.6	32.6	3.8	60.9	34.5	4.5
11月	65.2	31.2	3.6	60.4	35.0	4.5
12月	64.7	31.8	3.5	58.8	35.6	5.6
2017年1月	63.5	33.0	3.5	52.3	41.0	6.6
2月	59.1	37.0	4.0			
3月	64.7	31.5	3.8			

(参考) 荷動きに関連する米国の経済指標・動向

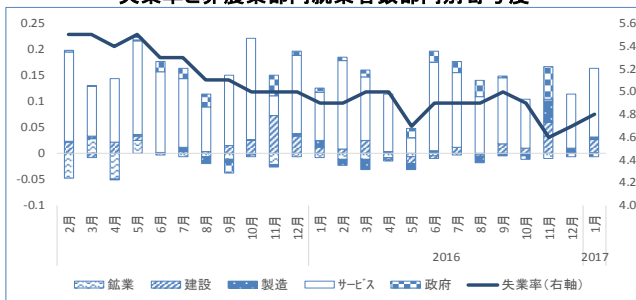
2016年3月作成 米国経済: 回復基調を維持

- ◆2016年第4四半期GDP(改定値)は前期比(年率換算)1.9%増。個人消費は上方修正。固定資本投資、在庫、政府支出が下方修正された。2016年の国産自動車販売は前年割れ。
- ◆1月の失業率は前月比0.1ポイント上昇の4.8%で2か月連続の増加となった。非農業部門全体では22.7万人雇用増。政府部門を除いて、全ての部門が増加。
- ◆鉱工業生産指数及び設備稼働率は2016年3月を底にやや上昇基調を示す。
- ◆ガソリンおよび先行指標であるWTI価格は2014年8月以降急落していたが、2016年3月を底にやや上昇基調にある。
- ◆2016年の住宅着工件数および許可件数は上昇基調を維持。住宅販売では新築住宅販売がやや緩やかな伸びとなっている。
- ◆小売売上高は16年3月を底に上昇基調を示す。電子機器関連の売り上げは伸び悩むものの、自動車関連の売り上げは回復を示す。
- ◆2014年10月開催の連邦公開市場委員会(FOMC)定例会で量的緩和(QE3)終了に。15年12月15-16日の会合で目標0.25-0.50%に利上げ。16年12月には目標0.50-0.75%で1年ぶりの利上げとなった。次回FOMC定例会は3月15-16日。

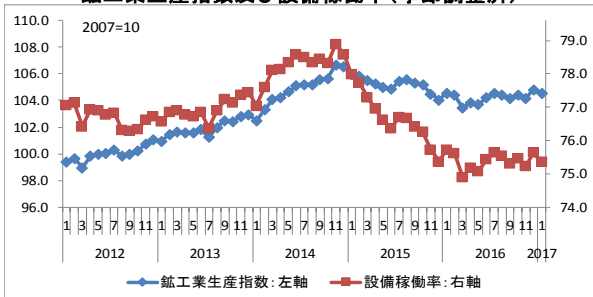
GDP成長率



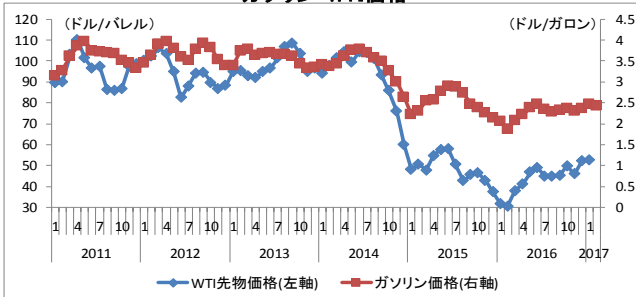
失業率と非農業部門就業者数部門別寄与度



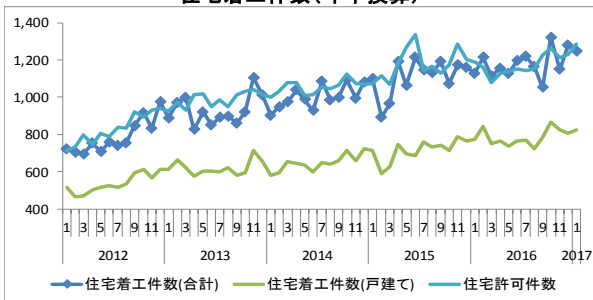
鉱工業生産指数及び設備稼働率(季節調整済)



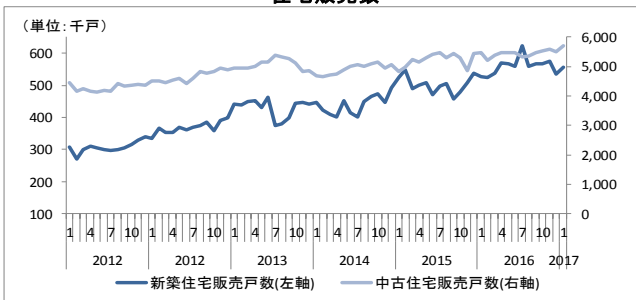
ガソリン・WTI価格



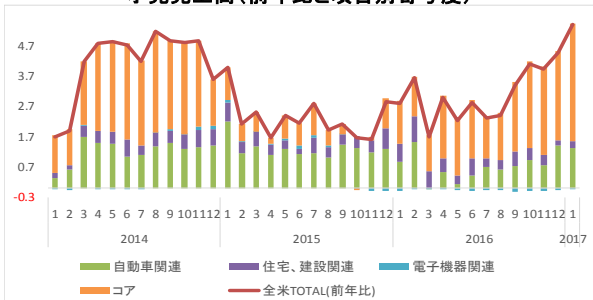
住宅着工件数(年率換算)



住宅販売数



小売売上高(前年比と項目別寄与度)



自動車販売台数

